

## Satellite 2005 Conference & Exhibit and SSPI GaLa に参加して

特別編集顧問 北爪 進

### 概要

March 22~25 2005 Washington Convention Center にて開催された Satellite 2005 Conference & Exhibit と SSPI Hall of Fame 表彰式引き続き GaLa に参加する機会を得たのでその概要を報告する。

今年の SSPI Hall of Fame には宇宙開発利用に貢献のあった 5 人の著名人が表彰されその中に日本より JSAT 株式会社の吉田顧問が含まれていた。

### Conference

初日である March 23 2005 の Opening Remark/Welcome に引き続き行われた General Session, "The Global Satellite Operator and Round Table" では世界の主要 Satellite Operator の CEO による Table Discussion が行われた。パネリストは Messer Conny Kullman Intelsat, Joseph Wright Pamamsat, Giuliano Berretta Eutelsat, Romain Bausch SES Global, Bernard Schwartz Loral Space Communications の 5 人の CEO である、衛星通信事業の発展のためには個人所有株主 (Private Equity Ownership) の利益を第一に考慮することが今後の事業運営には必要であり、技術的には Just one word performance であることが強調されていた。

March 24 2005, "Satellite Manufacturing: Building Confidence With Basics" では、世界主要の衛星メーカーの Executive である Messer David Ryan Boeing Satellite Systems Inc., Dr. Ari Atia Orbital Communications International, Patric Dewitt Space System Loral, Ted Gavrilis President Lockheed Martin Commercial Space Systems, Pascal Sourisse Alcatel Space, Antoine Bouvier EADS Astrium, John Keating Com Dev Ltd がパネリストとして参加し今後の通信衛星需要動向と信頼確保について討論された、今後の需要動向は過去数年低迷を続けているこの業界にも改善の兆しが見えるようになってきた、今後は年間 15 基程度の需要が見込めるとの見通しがパネリストの平均値であった。

司会者の Scott Chase より Orbital 社 Dr. Atia に対して BSAT-3a のメーカー選定結果について protest していることについて質問がだされた、これに対して Dr. Atia は totally unfair judge であったこと、Arbitration board が Orbital 社の technology is good との裁定を出しているとの説明があった。又 Patric Dewitt、Space System Loral, に対して chapter11 の影響についての質問があり、顧客が減ることを心配したがそれは無くむしろ負債が整理され会社の財務体質が向上した効果があったことを力説していた。



Fig. 1 パネル討論風景

### 軍と民間の協力の例

March 25 2005 8:30am、The Military and Commercial Relationship: What it takes Stronger Bond と題して Messier Marc Agnew, Vice President Broadband Systems Via Sat Inc, Denis Curtin, Chief Operating Officer XTAR LLC., Mary Ann Elliott, President & CEO Arrowhead Global Solutions Inc., Britt Lewis, Vice President, Marketing and Business Development Intelsat Government Solution Corporation がパネリストとなり、民間衛星オペレータが年間\$500Mを超える規模の需要がある政府と軍をクライアントとする business model の重要性を議論した。軍を代表して参加したパネリストとしては、「民間の衛星オペレータは通信衛星の利用方法をもっと政府と軍にわかり易いように説明して欲しい、そうする事によってもっと利用分野が開ける、利用方法が不明で使われないことが多々ある」とのコメントを力説していた。新規参入の Commercial Satellite Operator である Xtar の COO Dr. Curtin は今春打ち上げに成功し軌道上試験も順調に進んでいる X-Band 衛星は正にこのビジネスモデルを実行している例であると自信に満ちた表情で説明していた。



Fig 2 官民協力を討議するパネル(右より2人目、軍代表)

## SSPI Gala at Ground Hyatt Hotel

March 23 2005 Ground Hyatt Hotel in Washington D.C.にて SSPI(Society of Satellite Professional International) Gala が開催され、参加者は Black Tie 着用で約 1300 人以上 (one table10 人で 126 tables) の宇宙、衛星関係者が参加した、私は米国衛星メーカーが準備したテーブルに招待され、食事前後のカクテルパーティの会にて欧州、米国よりの昔からの多くの知人に合い意見交換と Friendship Renewal が行われる機会を得た。

懇親会に先駆け宇宙通信の発展のため貢献した人の殿堂入り(Hall of Fame)の表彰式が別室にて執り行われた。今年は JSAT 株式会社吉田顧問 (元 JSAT 株式会社社長) を含めた 5 名( Dr. C. Whitehead, Messer S. Dorfman, P. Hollis, T. Yoshida, E.Hartenstein) が表彰された。Mr.E.Hartenstein はご家族のご不幸により欠席であったのは残念だった。 表彰式に先駆けカクテルパーティがあり関係者の交流の場となった、その後 Award Committee の委員長である Washington University の Dr. Pelton による受賞者紹介と受賞者のスピーチがあり厳粛な雰囲気の中表彰式が執り行われた。



Fig 3 受賞者 ( 吉田さん、Hollis, Whitewood, Dorfman )



Fig.4 吉田顧問の受賞挨拶



Fig. 5 表彰式会場風景

今年の受賞者 5 名は結果的には旧 Hughes 社の関係者であった。

懇親会会場では日本からは JSAT, SCC の通信オペレーターの他、衛星メーカーの MELCO, NT-Space などから参加していた、海外からは Space System Loral 社の会長 Mr. Robert Berry を始め各社の多くの要人が集まり参加した関係者と意見交換の場として活用していた。日本からは効率的な Meeting が持てる好機でありこのような場を宇宙 Business にとって有効活用する場とすることが重要である。



Fig 6 SSPI Gala- 1



Fig 7 SSPI Gala- 2

#### Exhibition

展示会は衛星通信業者、衛星メーカー、機器メーカーなど約240社が参加し盛大であった、展示規模としてはPTCよりも遥かに大きいが日本からの参加展示はNT-S, New Japan Radio Corp.であった。米国、欧州の衛星メーカーは盛大に展示していたがVSATなど地上装置関係が非常に多く End to end capacityの重要性をみたようであった。

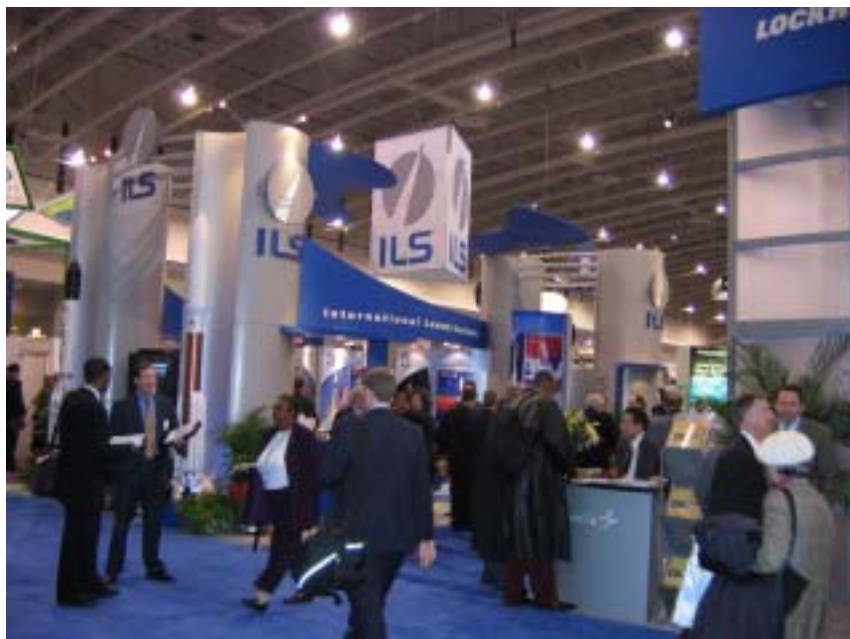


Fig 8 展示会場風景：その - 1



Fig 9 展示会場にて：その 2